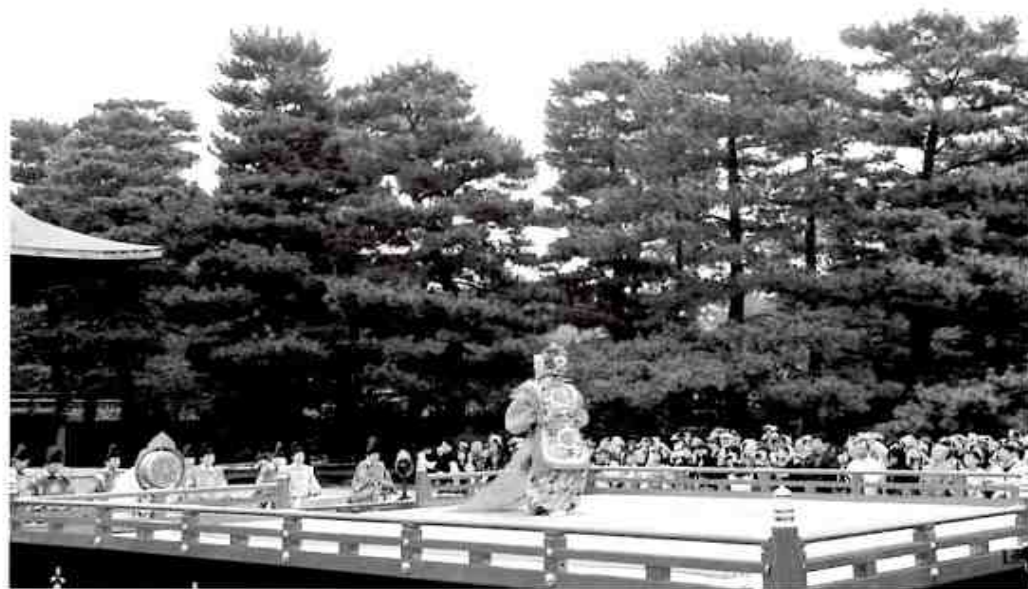


川柳 さいたま



京都御所

平成30年(2018年)

11月号 (No.708)

日川協加盟

巻頭言

武芸とくまじゆ

願法みつる

スポーツ競技の世界では、心理学的精神面の大切さが言われている。中世以降、兵法家が遺した武芸の秘伝書にも、究極は心の修練に尽きると述べられているようだ。竹身を削る修行の後は、禅的な修養を指導された。その故は、身に迫る万般の状況に、考えて動くのではなく、間髪を入れずに無意識に反応することを求める。即ち、不動心を体得して、身心の一体化を得ることにあるらしい。技という意識を超越することを、根本的な精神としていよう。相撲道の究極もここにあるのだから。敷衍すれば、武芸の精神は個人な闘いから集団の戦術軍略へ、そして国家的な戦略政略にまで相通じる。それは又、盤上で勝負を求める頭脳勝負から、組織単位や国家規模の生存を賭けた安全保障にまで、視野が広がってきた。たかが武芸、されどその心を突き詰めれば、森羅万象に思いを投影できる。

川柳世界を考えたととき、武芸の根本精神は、一柳人の川柳活動の姿勢から各様な組織の存在の在り方にまで、投影できるのかも知れない。川柳作句の修練とは奈辺を指向しているのだろうか。競争心の昂揚なのか自己精神性の純化なのか。組織は、そんな柳人集団を奈辺に導こうとしているのか。川柳武芸論を聞くことはない。

日日是好

願法みつる

理屈より逃げるが勝ちの武芸論

座頭市無心のままの右ひだり

六道をホップステップ鬼ごっこ

狂うとは間々あることと観世音

哲人の思想を砕くIT化